
「術後の麻薬投与が早期離床に与える影響の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2017年1月1日から、2023年6月30日の間に、埼玉医科大学総合医療センターまたは東京都済生会中央病院で、開胸手術または開腹手術を受けた患者さんを対象としております。（胸の内臓か腹部の内臓を手術した患者さん。血管内治療を除く。）

2. 研究の目的

手術を受けた後に傷口が強く痛むことが想定される場合、痛み止めの麻薬を使って痛みを和らげることがあります。そうすることで手術のあとも体を動かすことが楽になり、より効果的にリハビリテーションを行うことができるのです。この研究では、麻薬の使用の有無がリハビリテーションの効果にどの程度良い影響を与えるのか調べます。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年03月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年01月11日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる情報について

1. 情報の内容

下記の情報を診療記録やリハビリ記録から収集します。

年齢、性別、身長、体重、合併症、受けた手術の術式、麻酔の種類

入院時から退院時までのバーゼルインデックス（体をどの程度自分で動かせるのかという指標）

使用した痛み止めの種類・投与日時・投与期間・投与量などの情報

受けたりハビリの期間、リハビリを受けているときの評価内容

その他、痛みやリハビリに影響を及ぼすと思われる情報

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターでは研究責任者である澤野誠が、東京都済生会中央病院では研究責任者である有馬史人が、個人が特定できないように加

工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 情報の取得方法

開胸手術または開腹手術を受けた患者さんの診療記録やリハビリテーション記録などから情報を取得し、インターネットに繋がっていないパソコンで個人情報を特定できないよう加工したうえで、電子的に保護された記録媒体（移動用ハードディスクもしくはUSBメモリー）に保存します。

3. 情報を利用する者

<研究実施機関> 埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 澤野誠
埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 有馬史人
<共同研究機関> 東京都済生会中央病院 集中治療科 有馬史人

4. 情報の管理責任者

<提供先機関> 埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文
<提供元機関> 東京都済生会中央病院 病院長 海老原全

5. 情報の提供方法等について

東京都済生会中央病院で取得された情報は、全て個人を特定できないよう加工されたうえで、電子的に保護された記録媒体（移動用ハードディスクもしくはUSBメモリー）に記録され、紛失に注意しながら有馬史人が埼玉医科大学総合医療センターまで運び、情報を移します。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 澤野誠

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

電話：049-228-3755（土日を除く 9:00-17:00）

メールアドレス：sawano “AT” saitama-med.ne.jp（“AT” を@に置き換えてください）

○研究課題名：術後の麻薬投与が早期離床に与える影響の検討

○研究代表者：埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター 澤野誠